オーディオ実験室収載

音源の比較試聴(18)
―サンサーンスの交響曲 3 番―

１． 始めに

前報(17)に引き続き、各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

２． 音源の比較試聴の試聴方法と音源

各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の再構成はアースアキュライザーの活用(6)で述べたとおりで、さらに対策を追加しています。今回もそれらの対策の効果を、音源を替えて総合的に確認していきます。

音源は、下記の音源のカミーユ・サンサーンスの交響曲 3 番《オルガン》を聴いていきます。

アナログ盤

TELARK　10051

ユージンオーマンディ指揮フィラデルフィア交響楽団

STAGE+

ダニエル・バレンボイム指揮シカゴ交響楽団

ベルリンフィルディジタルコンサートホール

ズービン・メータ指揮ベルリンフィル（2015 年）

ズービン・メータ指揮ベルリンフィル（2020 年）

３．音源の比較試聴の試聴結果

アナログ盤のユージンオーマンディ指揮フィラデルフィア交響楽団は、発売当初話題を呼んだ TELARC 盤です。広大な音場表現が展開し、ペダル領域の低音も忠実に再生されています。

STAGE+のバレンボイム指揮シカゴ交響楽団は、ややアップテンポで切れのよい華やかな演奏で、オルガンの量感も十分です。

ベルリンフィルディジタルコンサートホールのメータ指揮ベルリンフィルは、2015 年の収録で、大ホールに心地よく、オルガンとオーケストラが調和してバランスよく響きあいます。

2020 年にもオルガンと金管のアンサンブルの演奏とともに収録されていますが、2015 年のメータ指揮ベルリンフィルの演奏の第 2 楽章のオルガンが加わったパートが切り取られて加えられています。

４．まとめ

いずれをとっても、アースアキュライザーの投入とそれに伴うアースラインの再構成、さらにはAV ドーナッツなどの結果、すべて効果がそれなりに現れ、オルガン演奏の違いやメディアの違いも把握でき、ペダル領域の再生も十分で、格落ちするような音源のフォーマットや再生経路はなくなったことが確認できました。

以上